

水銀に関する水俣条約 COP1（締約国会議第一回会合）
「水俣に思いをささげる時間」水俣市長スピーチ（確定版）

平成29年9月28日 13時（現地時間）

スイス・ジュネーブ国際会議場 講堂

まず、水銀に関する水俣条約の締約国会議第一回会合（COP1）の開催を心からお喜び申し上げますとともに、水俣市民の代表として、スピーチの機会を設けていただきましたことを、COP1議長、マーク・シャルドネンス様をはじめ、全ての関係者の皆さまのご尽力に心から感謝いたします。

水俣病は、今から61年前の1956年5月1日に公式確認されました。私は、その2年後に水俣市で生まれました。

私が幼かった頃の水俣は、たくさんの人が住み、賑わいのあるまちであったと記憶しています。

しかしその中で、水俣の海は工場排水で汚染され、原因不明の病は伝染病という誤った認識のもとに伝播されるなど、人々は水俣病問題に翻弄されていました。

やがて地域のコミュニティは分断され、崩壊しました。水俣のまちも人の心も傷ついていました。

さらに、水俣市民や国民の誤った水俣病への認識により、さまざまな偏見や差別を受ける時代が続きました。水俣市外に出ると、水俣出身だと、胸を張って言えなかった経験が私にもあります。偏見や差別を恐れてしまう気持ちと、愛するふるさと水俣への思いの間での、苦しい出来事でした。

当時は、水俣病について学ぶ機会がほとんどなく、水俣病に対する正しい知識が不足していました。

それを教訓として、今はしっかりと水俣病に関する学習が、小学生のときから行われています。

子どもたちには、将来どこで暮らすにせよ、水俣出身という誇りと、風評被害や差別偏見に負けない強い心を持って、それぞれに輝く人生を送ってほしいと願っています。

水俣病を経験した水俣市は、その数々の学びをもとに、行政や市民一人ひとりが立ち上がりました。

1994年、当時の水俣市長が行政として初めて謝罪し、崩壊した地域社会や、傷ついた人と人との絆を結びなおす「もやい直し」をさらに進めました。また、先進的なごみの高度分別などの、環境に配慮した取り組みを行う一方で、環境産業の企業を誘致するなど、「環境と経済が両立するまち」を目指してきました。

市民と行政が一体となった活動や努力の結果、水俣市は、日本で唯一の「環境首都」の称号を得るまでに至りました。

水俣病が発生した頃、日本は高度経済成長期でした。人の健康被害や環境破壊の問題よりも、日本経済の発展を最優先したことも、水俣病の被害が拡大した原因のひとつであり、このことは、水俣病の教訓にもつながっています。

またこれは、過去のことでなく、今もまだ同じような構図が、世界で起こっているように思います。

経済優先による大気汚染や、地球温暖化による異常気象などは現実問題で、被害は地球規模です。

世界中の国々が、ともに手を取り合い、経済優先の方針を見直し、人の健康や環境を第一に考える社会への転換を、はっきりと目指していくべきだと思います。

水俣病は過去のことでなく、まだ私たちの現実（生活）の中にあります。

不知火海沿岸の人々の健康を害し、半世紀以上にわたり、今この瞬間も健康被害に苦しんでいる人がいます。

また、分断したコミュニティの再生は簡単なことではありません。

人と人との絆をつなぎ直す「もやい直し」は、もっともっと進めていかなければなりません。

世界から水銀被害をなくすため、さらに水俣から情報を発信していく必要があります。

水俣条約は、4年前の2013年、水俣の地で開催された「水銀に関する水俣条約外交会議」での記念式典を経て、採択されました。

その後、本年8月16日に水俣条約が発効し、このCOP1が開催されたことについて、私は、人類の歴史に残る記念すべきスタートだと考えます。

水俣条約には、「水俣病と同様の健康被害や環境破壊を繰り返してはならない」との決意が込められています。

水俣市はその決意にこたえるため、水俣のあらゆる資源を活用して世界に貢献したいと考えています。

水俣には、水俣病資料館や、水俣病総合研究センター、水俣環境アカデミアなど、さまざまな施設があります。

これらの施設では、日本や世界中から、水俣病や水銀対策技術について学ぼうとする人を、長年におたって受け入れ続けています。

また、若い世代の環境教育にも力を入れており、水俣条約の発効を待つ間も、水俣の中学生が水銀のことを学び、世界へ向けてメッセージを発信しました。

これら、水俣を訪れ、水俣病や水俣の環境の取り組みを学んだ全ての人が、水俣の宝であり、世界の貴重な人材です。

さらに特筆すべきなのは、水俣には美しい自然があります。

山には漁民が植樹した森があり、山からの水が川を流れ、たくさんの小魚や水棲生物を育みます。

海では、海草が育ち、小魚が群れ、訪れるダイバーたちを楽しませています。

これらの美しい自然は、それを見て、聞いて、触れることで環境保全の大切さを感じることができる、何ものにもかえがたい重要な資源です。

世界中の人々に水俣を訪れていただき、そして、水銀被害の悲惨さだけでなく、環境保全の大切さや水銀対策の重要性も理解してほしい、そう強く願っています。

水俣は、皆さまの訪問を歓迎し、貴重な体験を提供することをお約束します。

そして、水俣条約が世界中の人々に幸せをもたらしてくれることを祈念します。